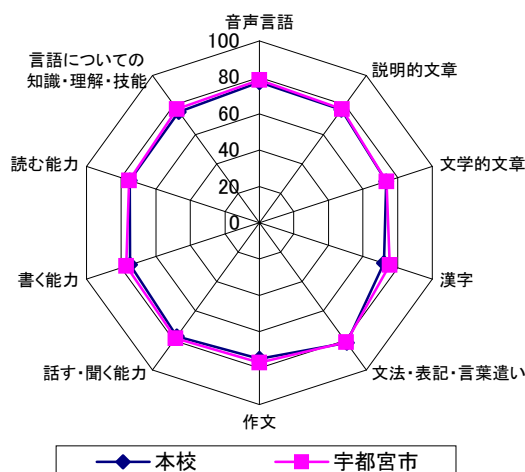


宇都宮市立鬼怒中学校第2学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	77.3	78.5
	説明的文章	76.7	77.2
	文学的文章	73.2	73.4
	漢字	72.1	75.3
	文法・表記・言葉遣い	81.7	81.1
	作文	74.9	76.9
観点別	話す・聞く能力	77.3	78.5
	書く能力	74.9	76.9
	読む能力	75.0	75.3
	言語についての知識・理解・技能	75.3	77.3



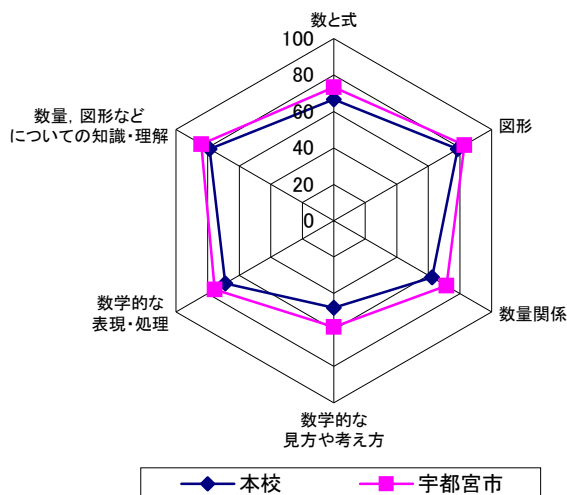
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (77.3%)	昨年度より8.3ポイント上昇しているものの、市の平均を1.2ポイント下回っている。「趣旨の聞き取り」についてはおおむね良好であるが、「事実と意見の聞き分け」や「インタビューの工夫の聞き取り」の正答率が低くなっている。	教師や生徒の話や発表を集中して聞くように、普段から指導を強化するとともに、授業中の「聞く・話す」という活動の機会を増やしながら、話の内容を正確に聞き取る訓練を実施していく。
説明的文章 (76.7%)	昨年度より19.9ポイント上昇しているが、市の平均をわずかに下回っている。「接続語の補充」についてはおおむね良好といえるが、「文章の構成や展開」「意見の記述」については、市の平均を下回っており、課題がある。	段落ごとの要旨の読み取りや文章にあらわす機会を増やしていくとともに、文章の構成のパターンを理解させ、論理的に文章に表現させることが出来るよう、文章を書くことを重視した指導を強化していく。
文学的文章 (73.2%)	昨年度を1.2ポイント下回り、市の平均よりも0.2ポイント低くなっている。「登場人物の心情」や「登場人物の様子」の読み取りの理解が不充分であり、課題がある。	登場人物の心情描写や行動描写をていねいに扱い、場面の展開に即した内容理解ができるような指導を強化していく。また、読書の時間でも、文学作品を紹介し、多くの作品にふれさせ、読解力を高めさせていく。
漢字 (72.1%)	昨年度を5.4ポイント下回っており、市の平均を3.2ポイント下回っている。特に、中学二年生の漢字の書き取りで、市の平均を10.3ポイントと大きく下回っている。大きな課題となっている。文章を読ませても漢字が読めなかったり、試験の答えにも漢字を使わない生徒がおり、漢字の、特に書き取りについては、大きな課題である。	新出漢字を中心に、漢字の練習を家庭学習の課題として出しながら、書き取り練習を強化し、細かい部分までチェックし、確認していく指導をしていく。また、小テストを頻繁におこない、確実に漢字力が身につくように指導していく。
文法・表記・言葉遣い (81.7%)	昨年度と比べると3.8ポイント下回っているものの、市の平均を0.6ポイント上まわり、おおむね満足できる状況である。小問別に見ると、「方言と共通語」については満足できる状況であるが、「類義語」において市の平均を下回り、課題がある。	文法学習への苦手意識をなくすような指導を工夫するとともに、ワークなどを活用しながら練習問題を数多く行うようにして、知識の定着を図っていく。また、類義語について、語いを増やせるよう、ある表現を、別な表現に言い換えていく指導を実施するとともに、言い換えの練習問題を多く取り入れて実施していく。
作文 (74.9%)	昨年度を9.3ポイント上回っているものの、市の平均より2ポイント低くなっている。小問別に見ると、「故事成語の活用」や「意見の記述」での正答割合が低く、課題となっている。	故事成語に関する指導の時間を確保するとともに、学級での日記指導とも関連を図りながら、作文を書く機会を多く持てるように時間を確保する。また、読書の時間に読む本の紹介をおこなうことで、優れた文章に触れさせ、また、新聞記事の活用を図り、意見や考えをどのような構成でまとめていけばよいのか、作文を書く時の参考となるような指導を行っていく。

宇都宮市立鬼怒中学校第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	66.7	73.3
	図形	78.6	82.8
	数量関係	62.2	71.3
観点別	数学的な見方や考え方	47.7	58.4
	数学的な表現・処理	69.0	75.3
	数量、図形などについての知識・理解	78.7	83.9



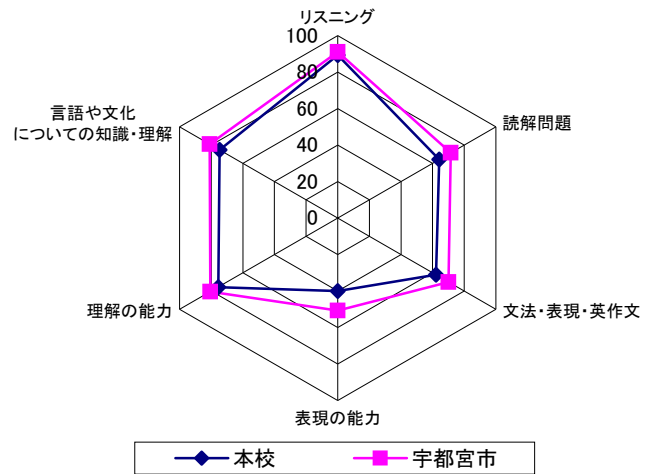
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (66.7%)	市の平均を6.6ポイント下回っており、計算力の向上が必要である。文字式の計算の方法を理解していない生徒もいる。また文章題の問題を理解できないために解けない生徒もいる。	計算力向上のため、既習事項を確認するための復習の時間を確保したい。また、理解を深めるためにドリル形式で計算練習を多く取り入れ、家庭学習でも計算練習ができるよう定期的に宿題を出し計算方法の定着を図っていく。また、計算力が十分身につけていない状況にあるので、個々の能力に合わせ必要に応じて既習内容の復習の機会を設けていく。
図形 (78.6%)	他の2領域に比べ正答率は高くなっているが、市の平均より4.2ポイント低く、満足できる状況とはいえない。三角形の合同条件の理解、証明の書き方の定着が不十分である。	三角形の合同条件等、覚えなければならない事はしっかりと覚えさせる。また筋道を立てて考察し証明を書いていく練習やさしい問題を使って取り組ませていく。
数量関係 (62.2%)	関数について苦手意識を持っている生徒が多く、正答率も伸びていない。一次関数のグラフについては理解しているが、式を求めたり応用的な問題になるとわからない生徒が多い。	表・式・グラフの関係を正しく理解させ、一次関数の式を求める練習も多く取り入れていく。問題を読み、問題の意味を理解させることも練習させる。

宇都宮市立鬼怒中学校第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	89.3	91.1
	読解問題	64.2	71.5
	文法・表現・英作文	62.2	70.0
観点別	表現の能力	40.1	50.6
	理解の能力	75.6	80.4
	言語や文化についての知識・理解	74.8	81.1



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (89.3%)	昨年度より5.9ポイント上昇しているものの、市の平均を1.8ポイント下回っており、対話のリスニングにおいて課題がある。	「英語を聞く」ことを重点とした内容を多く取り入れ、正しい発音で英語を聞くためにALTやCDを効果的に活用していく授業を強化する。授業の導入として、代表的な日常の会話を紹介するとともに使用する場面を多く取り入れ、多くの人とコミュニケーションを図ることができるよう、英語を聞き、話す指導を強化していく。
読解問題 (64.2%)	昨年度より0.2ポイント上がっているが、市の平均より7.3ポイント低く、あまり満足した状況ではない。対話文や長文の内容把握において課題がある。	授業の中で内容把握のポイントを提示する指導を強化する。長文の内容確認を含む小テストとテスト後の解説を実施し、知識の定着を図る指導を強化する。
文法・表現・英作文 (62.2%)	昨年度より10.8ポイント上昇しているが、市の平均より7.8ポイント低く、満足できる状況とはいえない。対話文の空所補充の問題に課題がある。	授業の中で、基本文、基本単語の繰り返しの練習の時間を確保するとともに、小テストを繰り返し実施することで定着を図っていく。また、基本文・基本単語の練習を宿題として出し、定着を図っていく。